

インフォメーション・コーナー

令和8年8月千葉豪雨による災害において、お亡くなりになった方々へ謹んで哀悼の意を表しますとともに、家屋や農地などの被害を受けられた方々に心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復旧・復興を祈念しております。

会 告

○第76回(2027年度)農業農村工学会賞候補の推薦 締切 10月31日	74
○新刊「農業用ダム保全管理工学」の発刊	75
○「農業用ダム保全管理工学」のカバーを修正しました	75
○新刊 土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「排水」の発刊	76
○新刊 土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「農道」, 設計「頭首工」, 設計「農道」の発刊	76
○お願い!! 持続可能な農業農村工学のための学術基金へのご寄付	77
○CPD 通信教育の参加者募集!! 問題と解答はホームページに掲載	77
○「水土の知(農業農村工学会誌)」への投稿お待ちしております!	78
○改訂6版 農業農村工学標準用語事典 PDF版およびWeb版の閲覧申込み案内	79
○2027年の学会誌表紙写真の募集 応募締切 9月30日	79
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと	
2026年7月から2029年6月までの編集体制と編集事務局	80
○第75回北海道支部研究発表会の開催 発表申込締切 9月25日	81
○北海道支部第45回研修会の開催 11月5日開催	81
○第65回土壌物理研究部会研究集会の開催 11月27日開催	82
○農業用ダム研究会シンポジウムの開催 10月8日開催	82
○事例から学ぶセメント系材料の基礎知識セミナーの開催	82
農業農村工学会論文集 内容紹介	83
農業農村工学会技術者継続教育機構認定プログラム(一般参加可) 一覧	84
学会記事	85

第94巻第10号予定

展望：生態系配慮技術のさらなる実質化に向けて：角道弘文

小特集：農業農村整備における生態系配慮技術の最前線

報文：多様な魚種に対応したマルチパス魚道開発のための基礎実験：小野 真ほか

報文：茨城県の池における貝類・魚類の環境DNAのモニタリング：渡部恵司ほか

報文：超音波画像診断装置による農業用水路の魚類計数手法の開発：吉川夏樹ほか

報文：新潟県の農業農村整備事業における環境配慮施設の評価：猪俣直花ほか

報文：深層学習による超音波エコー映像の魚類計数手法の開発：宮津 進ほか

技術リポート

北海道支部：航空測量とドローン測量の性能比較に基づく連携活用の検討：矢橋潤一郎ほか

東北支部：芦野頭首工における魚道整備の順応的管理：後藤正志

関東支部：土地改良施設突発事故復旧・防止事業の事例：鳥海啓介

京都支部：市街地での排水機場更新工事における近隣関係者への配慮：萩原康司ほか

中国四国支部：ため池遠隔監視システムによる管理者の負担軽減：山本 俊

九州沖縄支部：PC中空床版橋のひび割れ発生メカニズムと対策工法の検討：富吉圭祐ほか

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加くださるよう、お待ちしております。

㊦のマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。詳しくは主催先の各支部または各研究部会にお問い合わせください。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
2026年9月 1～3日	農村計画研究部会	第1回次世代と学ぶ農村計画 (現地研修)	都市農村交流による 持続的な農村振興	群馬県 みなかみ町	94巻5, 7号
2026年9月 15日	関東支部	2026年度技術研修シンポジウム ㊦	農村における外来種 対策の最前線	Web	94巻7, 8号
2026年10月 8日	農業農村工学会	農業用ダム研究会シンポジウム	—	文京区	94巻9号
2026年10月 29～30日	中国四国支部	第81回支部講演会 第50回地方講習会 ㊦	—	徳島市	94巻7, 8号
2026年10月 29～30日	九州沖縄支部	令和8年度(第107回)支部大会 ㊦	未定	大分市	94巻4, 8号
2026年11月 5日	北海道支部	第45回研修会 ㊦	30年後の北海道農 業・農村の姿	札幌市	94巻9号
2026年11月 6日	北海道支部	第75回研究発表会 ㊦	—	札幌市	94巻9号
2026年11月 10日	関東支部	第77回支部大会 ㊦	—	甲府市	94巻6, 8号
2026年11月 19～20日	東北支部	令和8年度総会・第66回研究発 表会・第56回研修会・第46回 地方講習会 ㊦	—	山形市	94巻8号
2026年11月 19～20日	京都支部	第83回研究発表会 ㊦	—	京都市	94巻4, 6号
2026年11月 27日	土壌物理研究部会	第65回研究集会	—	文京区	94巻9号

第76回(2027年度)農業農村工学会賞候補の推薦

第76回(2027年度)の農業農村工学会賞(上野賞, 沢田賞を除く)を、下記の募集要項に則って、推薦書によりご推薦ください。なお、推薦書様式および授賞規程は学会ホームページ(<https://www.jsidre.or.jp/format/>)をご参照ください。
推薦書提出先および提出方法: 学会賞選考委員会担当(new-suido@jsidre.or.jp)宛に電子メールでお送りください。
提出ファイル: 推薦書のエクセルファイルおよびエクセルファ

イルをPDF化したファイルの2ファイル(推薦者の押印は不要、パスワードを設定してください。)

推薦締切: 2026年10月末日

その他: メールが届き次第、受領の返信をしますが、数日経過しても返信がない場合は、上記担当者宛にお問い合わせください。

第76回(2027年度)農業農村工学会賞 募集要項

賞の種別	学術賞	奨励賞		優秀賞			
		研究奨励賞	技術奨励賞	優秀論文賞	優秀報文賞	優秀技術賞	優秀技術リポート賞
賞の趣旨	農業農村工学に関する学術または技術の進歩に貢献した創意ある優秀な業績	農業農村工学に関する学術または技術の進歩に寄与すると認められる優秀な業績	農業農村工学に関する計画、設計、施工、管理等の技術業績	農業農村工学に関する単独の論文業績	農業農村工学に関する単独の報文業績	農業農村工学に関する計画、設計、施工、管理等の単独の技術業績	農業農村工学に関する単独の技術リポート業績
賞の対象期間	2021年10月から2026年9月までに発表されたものとする。ただし、その5カ年以内に発表したものと同一の課題については、それ以前に発表されたものも、一連の業績とすることができる。	2023年10月から2026年9月までに発表されたものとする。ただし、その3カ年以内に発表したものと同一の課題については、それ以前に発表されたものも、一連の業績とすることができる。	2023年10月から2026年9月までに発表されたものとする。ただし、その3カ年以内に発表したものと同一の課題については、それ以前に発表されたものも、一連の業績とすることができる。	2025年10月から2026年9月までに発表されたものとする。	2025年10月から2026年9月までに発表されたものとする。	2024年10月から2026年9月までに発表されたものとする。	2021年10月から2026年9月までに発表されたものとする。
賞の対象業績	原則として本学会の刊行物に発表された論文、報文等とする。			原則として本学会の刊行物に発表された論文とする。	原則として本学会の刊行物に発表された報文とする。	原則として本学会の刊行物に発表された論文、報文等とする。主として現場調査資料、現場技術報告書とする。	原則として本学会の刊行物に発表された技術リポートとする。
受賞候補者	個人			個人または組織、団体			
推薦の方法	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。			正会員および名誉会員の自薦、他薦または学会誌・論文集の企画・編集委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。			

賞の種別	著作賞	教育賞	環境賞	歴史・文化賞	地域貢献賞	国際貢献賞	メディア賞	功労賞
賞の趣旨	原則として一般に市販されている図書の中で、農業農村工学に関する学術または技術を広く世に紹介することに顕著な貢献をしたと認められる業績	農業農村工学に関する教育、技術者の継続教育など資質の向上に寄与したと認められる活動で優れた業績	農業・農村の生産・生活環境の改善や生態系保全など、美しい環境の保全や創出において優れた計画および施工を行い、もしくは管理・保全活動を行った業績	農業農村工学に関する歴史・文化を広く世に紹介し、あるいは研究分析などを行った業績	農村地域社会の発展・活性化に貢献した業績	農業農村工学に関する学術または技術について、国際的な交流や調査研究で優れた業績	農業農村工学を紹介したパンフレット、ビデオ作品、教材スライド、映画等	長年にわたる、地道な教育・研究または実務の積み重ねを通じて、農業農村工学の学術または技術の進歩発展に多大の功労があったと認められる者
賞の対象期間	2016年10月から2026年9月までに発表されたものとする。	2021年10月から2026年9月までにを行った活動とする。	2024年10月から2026年9月までにを行った活動とする。	2021年10月から2026年9月までにを行った活動とする。	2021年10月から2026年9月までにを行ったものとする。	2021年10月から2026年9月までにを行ったものとする。	2024年10月から2026年9月までに制作したものとする。	
賞の対象業績	ハンドブック・便覧の類の著書および翻訳書は対象としない。また、改訂版にあっては全面改訂したもののみを対象とする。							2026年度末に65歳以上に達している者
受賞候補者	著者	個人または組織・団体				個人	個人または組織・団体	個人
推薦の方法	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。	正会員および名誉会員の自薦、他薦または技術者継続教育機構CPD運営委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。	推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。	正会員および名誉会員の自薦、他薦または国際委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。
選考の方法	学会賞選考委員会において行う							
賞の決定	理事会において行う							
表彰	2027年度(第76回)農業農村工学会大会講演会において会長が授与する							
推薦締切	2026年10月末日							
推薦書の提出先	公益社団法人 農業農村工学会 学会賞選考委員会宛 new-suido@jsidre.or.jp							

新刊 「農業用ダム保安全管理工学」の発刊

農業農村工学会では、学会内で長年活動した農業用ダム保安全管理研究会を母体に農業用ダム保安全管理工学編集委員会を組織して、「農業用ダム保安全管理工学」を出版しました。改正土地改良法において、保全が明記されています。そのため、現場技術者が知っておくべき農業用ダムの技術を基礎的な事項から解説することで、技術研修のテキストや大学での教科書にも活用できることを意図しています。

購入希望の方は、下記要領にてお申し込みください。

1. 発行書籍

書籍名：農業用ダム保安全管理工学
編 集：農業用ダム保安全管理工学編集委員会
発 行：(公社)農業農村工学会
価 格：3,960円(税込)、学割：2,860円(税込)
送 料：1冊200円(最大600円)
規 格：A5判 306ページ
発行日：令和7年9月1日

2. 申込み方法

I. 個人、法人の場合(賛助会員を除く)

① 郵便振替：郵便局の払込取扱票の通信欄に書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先をご記入ください。

振替口座番号：00160-8-47993

加入者：公益社団法人 農業農村工学会

② 現金書留：書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先を書いた注文書をご同封ください。

③ 代金引換：書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先を記載した注文書に「代引希望」と書き添えてE-mailでお送りください。別途、送料の実費と代引手数料が必要です。

II. 官公庁の公費購入および賛助会員の場合

書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先を書いた注文書をE-mailでお送りください。

3. 申込み先

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4
(公社)農業農村工学会事務局 図書係
TEL：03-3436-3418
E-mail：suido@jsidre.or.jp

「農業用ダム保安全管理工学」のカバーを修正しました

令和7年9月1日に発刊しました「農業用ダム保安全管理工学」について、カバーに不備が見られましたので修正しました。大会講演会会場にてご購入いただきました方には修正版のカバーを送付しますので、下記あてにご連絡をお願いします。

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4
(公社)農業農村工学会事務局 図書係
TEL：03-3436-3418
E-mail：suido@jsidre.or.jp

新刊 土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「排水」の発刊

令和7年4月に制定された、土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「排水」（農林水産省農村振興局編集）を令和7年12月に発刊しました。

購入希望の方は、下記要領にてお申し込みください。

1. 発行書籍

書籍名：土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「排水」基準、基準の運用、基準及び運用の解説、技術書

編集：農林水産省農村振興局

価格：2,530円（税込）、送料：1冊200円（最大600円）

規格：A4判 366ページ

発行日：令和7年12月17日

2. 申込み方法

I. 個人、法人の場合（賛助会員を除く）

- ① 郵便振替：郵便局の払込取扱票の通信欄に書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先をご記入ください。

振替口座番号：00160-8-47993

加入者：公益社団法人 農業農村工学会

- ② 現金書留：書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先を書いた注文書をご同封ください。
- ③ 代金引換：書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先を記載した注文書に「代引希望」と書き添えてE-mailでお送りください。別途、送料の実費と代引手数料が必要です。

II. 官公庁の公費購入および賛助会員の場合

書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先を書いた注文書をE-mailでお送りください。

3. 申込み先

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

（公社）農業農村工学会事務局 図書係

TEL：03-3436-3418

E-mail：suido@jsidre.or.jp

新刊 土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「農道」、設計「頭首工」、設計「農道」の発刊

令和6年3月に制定された、土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「農道」、設計「頭首工」、設計「農道」（農林水産省農村振興局編集）を令和6年10月に発刊しました。

購入希望の方は、下記要領にてお申し込みください。

1. 発行書籍

書籍名：土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「農道」基準、基準の運用、基準及び運用の解説、技術書

編集：農林水産省農村振興局

価格：1,760円（税込）、送料：1冊200円（最大600円）

規格：A4判 173ページ

発行日：令和6年10月10日

書籍名：土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 設計「頭首工」基準、基準の運用、基準及び運用の解説、技術書

編集：農林水産省農村振興局

価格：4,510円（税込）、送料：1冊200円（最大600円）

規格：A4判 728ページ

発行日：令和6年10月7日

書籍名：土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 設計「農道」基準、基準の運用、基準及び運用の解説、技術書

編集：農林水産省農村振興局

価格：2,970円（税込）、送料：1冊200円（最大600円）

規格：A4判 850ページ

発行日：令和6年10月7日

2. 申込み方法

I. 個人、法人の場合（賛助会員を除く）

- ① 郵便振替：郵便局の払込取扱票の通信欄に書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先をご記入ください。

振替口座番号：00160-8-47993

加入者：公益社団法人 農業農村工学会

- ② 現金書留：書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先を書いた注文書をご同封ください。
- ③ 代金引換：書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先を記載した注文書に「代引希望」と書き添えてE-mailでお送りください。別途、送料の実費と代引手数料が必要です。

II. 官公庁の公費購入および賛助会員の場合

書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先を書いた注文書をE-mailでお送りください。

3. 申込み先

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

（公社）農業農村工学会事務局 図書係

TEL：03-3436-3418

E-mail：suido@jsidre.or.jp

お願い!! 持続可能な農業農村工学のための学術基金へのご寄付

社会的状況を踏まえ学会では2026年度の学生年会費を免除しています。また、大学では、若手の研究者のみならず、教授を含めた大学教員の研究環境は悪化の一途を辿っており、人材の育成も困難になっています。そのため、産官学の連携協力の強化を進めているところですが、その一環として、学会にある学術基金の拡充が喫緊の課題となっています。

2024年5月には、持続可能な農業農村工学教育のため「技術者育成のための調査・研究費」を公募により必要な大学に支援する学術基金制度の拡充(⑦)を行いました。

使用目的を明確化していますので、ほかに使用することはなく、税制上の優遇措置もあります。新技術の開発と人材の確保・育成のため、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、衷心よりお願い申し上げます。

学術基金の枠組みは、以下のとおりです。

- (1) 学会の事業計画に沿った調査・研究(学会に一任)
(※特に記載がなければ(1)として扱います。)

- (2) 条件を付した寄付

選定条件【

- ① ダム保全管理工学に関する調査・研究の推進
 - ・気候変動、国土強靱化に対応した既存ダムの保全管理工学の体系化を推進
- ② 大規模コンクリート構造物の設計・施工に関する調査・研究の推進
 - ・頭首工などコンクリートの大型構造物のプレキャスト化など効率的な施工による生産性の向上や工事期間の短縮

に資する技術開発

- ③ ①、②以外の分野および学際的分野に関する調査・研究の推進

・上記①、②以外、たとえばICTなど新たに取り組んでほしい技術

- ④ 国際学会会議への出席等の国際交流の推進

- ⑤ 若手研究者の育成の推進

- ⑥ 顕著な功績のあった農業工学遺産の保護等の推進

・青山霊園にある上野英三郎博士の墓所管理
・世界かんがい遺産などの保護に資する調査・研究 など

⑦ 技術者育成のための調査・研究の推進

詳しくは学会ホームページ(https://www.jsidre.or.jp/gakujutsukikin_kifuno-onegai/)をご覧ください。

個人会員一口 5,000円(何口でも可)

法人会員一口 50,000円(何口でも可)

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名 (社)農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

公益法人である学会に法人が寄付すると法人税に対して税制優遇措置(一般損金算入限度額+特別損金算入限度額)が受けられます。また個人が寄付する場合は、所得税等の寄付金控除が受けられます。

CPD 通信教育の参加者募集!! 問題と解答はホームページに掲載

農業農村工学会では、学会員であり、かつ技術者継続教育機構のCPD個人登録者の方がCPD単位を在宅のまま取得する方法として、平成17年10号から農業農村工学会誌「水土の知」誌上で「CPD通信教育」を実施しています。学会員であり、かつCPD個人登録者は、どなたでも無料で参加することができ、通信教育分【ac】として年間最大24cpdを取得する大きなチャンスとなっています。この機会に、是非CPD通信教育へご参加ください。

技術者継続教育機構のホームページにおいて、その時点で解答可能な「通信教育問題」と解答期限を過ぎた「解答」を掲載しています。学会誌がお手元に届くまでの間はホームページ上で通信教育問題をご確認いただけます。

なお、解答内容については技術者倫理に則り、自らの責任で送信してください。

1. 参加資格

農業農村工学会の個人会員であり、かつ技術者継続教育機構

のCPD個人登録者

2. 出題内容と出題方法

3カ月前に発行された農業農村工学会誌に掲載された報文等の事実的内容から、択一式で毎月10問を出題

3. 解答方法

Web画面に正解と思う番号を入力し、送信(事前にWeb利用登録が必要)

4. 解答期限

問題掲載月の月から翌月末日まで

(例：学会誌9号掲載の問題は10月末日が解答期限)

5. 取得できるCPD単位

10問正解で2cpdを、7~9問正解で1.5cpdを自動登録(正解数6問以下の場合はCPD単位の付与はされません)

6. 自動登録の時期

取得したCPD単位は、解答期限最終日の翌月初旬に自動登録されます。

「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

1. 学会誌小特集の要旨の募集とその報文原稿の執筆

学会誌は毎号テーマを設定した報文小特集を基本に、企画・編集を行っています。本小特集に投稿を希望される会員の皆様には、先に、下記に示す各号の趣旨に沿った報文要旨（A4判、1,500字程度、様式自由）を要旨締切り日までに提出していただきます。

その後、企画・編集委員会において提出された要旨の内容を

検討し、小特集報文を提出していただく連絡を要旨提出された方に行います。その報文原稿の締切り期日は、おおむね本文原稿提出連絡日の約1カ月後です。本文原稿の分量は、**刷上り4ページ**となっておりますので、ご執筆の際には**厳守**をお願いします。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがあります。

学会誌第94巻・第95巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ		要 旨 締 切 (A4判1,500字程度)
第94巻第10号	農業農村整備における生態系配慮技術の最前線	終了
	11号 農地整備を契機とした新たな農業経営	終了
	12号 土地改良長期計画に基づく農業水利施設の戦略的保全管理とデジタル活用	終了
第95巻第1号	農業農村工学研究のフロンティア	終了
	2号 渇水リスクの高まりに立ち向かう農業用水の管理技術	終了
	3号 集落の将来を考える（仮）	9月10日
	4号 農業農村工学技術の開発と普及の促進に向けて産学官は何をすべきか（仮）	公募なし
	5号 農業農村工学におけるAI実装の実践（仮）	11月10日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌企画・編集委員会あてにお寄せください。

送付先（要旨および本文原稿など）

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

（公社）農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会あて

TEL：03-3436-3418

E-mail：henshu@jsidre.or.jp

※提出は、E-mailの添付ファイルにてお願い申し上げます。

学会誌第95巻第3号テーマ「集落の将来を考える」（仮）

農村地域では、人口の減少・高齢化とそれに起因する地域資源管理機能の低下、地域活動の担い手確保の困難化など、多くの課題を抱えています。このような状況に対して、集落単位の将来の農業のあり方を描いてきた「人・農地プラン」に代わり、法定計画である「地域計画」が令和7年3月を期限として市町村を主体に策定されることになりました。また、類似の取組みとして、国土交通省では令和3年6月にとりまとめられた「国土の管理構想」に基づき、市町村・地域管理構想が進められています。いずれも、近い将来の集落について住民自らが維持すべき農地の明確化など土地利用の将来像を策定し、それを支える主体を考えるものです。これらは、集落の将来を考える上で有益な取組みですが、その策定には多くの課題もあります。特に「地域計画」については、策定して終わりではなく、継続的

なブラッシュアップが必要とされています。

このような取組みに関して、その策定状況を概観するとともに、策定された将来像のあり方、計画策定で生じた課題、計画の実質化方策等に関する議論を深めることは大変重要なことです。本小特集では、「地域計画」や「国土の管理構想」などの法定計画や政策的な取組みはもちろん、市町村や地域における自主的な取組み、計画策定（技術）に関する検討も含め、土地利用や地域資源管理のあり方を中心とした集落の将来を計画することに関する議論を広く展開できればと考えています。計画の策定状況や策定された計画の特徴に関する報告、計画策定過程の課題と適用できる技術、計画の実質化やブラッシュアップに関する知見等、多くの応募を期待しています。

学会誌第95巻第5号テーマ「農業農村工学におけるAI実装の実践」（仮）

近年、農業農村工学の分野においても、画像解析、数値予測、施設管理、気象・水文データ解析など、さまざまな場面でAIの活用が進んでいます。AIは大量のデータから有用な特徴を抽出できる一方で、学習データが限られる現場や未知の条件に適用する場合には、予測精度や結果の解釈に課題が残ることも

少なくありません。

こうした課題に対するひとつの方向性として、対象とする現象の物理的理解や経験的知識をAIに取り入れる考え方が注目されています。農業農村工学が扱う水の流れ、土や構造物の変形、材料劣化、気象・水文の変動などには、これまで蓄積され

てきた理論、モデル、計測技術、現場知が存在します。AIを単なるブラックボックスとして用いるのではなく、これらの知識と組み合わせることで、少ないデータでも信頼性の高い予測を行い、結果の意味を説明しやすくすることが期待されています。

一方で、AIの性能はモデルだけでなく、入力データの質や実装方法にも大きく左右されます。現場データには欠測、ノイズ、観測条件のばらつき、機器差などが含まれることが多く、異常値処理、ノイズ除去、校正、データ統合、データに正解情報や分類情報を付与するアノテーション、前処理の標準化といったデータ整備が結果の信頼性を支えています。また、モデ

ル選定、データの前処理からモデルの学習、学習済みモデルによる予測・判定までをつなぐ一連の処理手順の構築、計算資源や運用・保守を見据えた設計、不確実性の把握など、AIを現場で継続的に活用するための工夫も重要です。

本小特集では、農業農村工学分野におけるAI技術の実践例、課題、今後の展望を広く紹介します。物理的理解を取り入れた手法に限らず、データ整備、解析支援、実装・運用、現場適用に関する具体的な工夫も含め、研究と実務の双方の視点から、実用的で信頼できるAI活用のあり方を考える機会となれば幸いです。

2. 自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿原稿およびその他の投稿区分の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページ (<https://www.jsidre.or.jp/journal/>) に掲載の「農業農村工学会誌投稿要項」、『農業農村工学会誌』原稿執筆の手引き

を熟読の上、小特集と同じく農業農村工学会誌企画・編集委員会あてに、ご投稿ください。

ご投稿に当たっては、投稿票・内容紹介・本文（テンプレート）の各ファイル（Word）を上記の学会ホームページからダウンロードし、原稿の作成にご使用ください。

改訂6版 農業農村工学標準用語事典 PDF版およびWeb版の閲覧申込み案内

改訂6版 農業農村工学標準用語事典 PDF版およびWeb版の閲覧希望の皆様へ

改訂6版 農業農村工学標準用語事典は、2019年8月27日に発行し好評を得ていますが、下記に該当する冊子購入者の中で希望される方には、学会ホームページ上で閲覧サービスを行っています。該当する閲覧希望の方は、下記にしたがい閲覧の手続きをお願い申し上げます。

- (1) 本用語事典の学会Web上での開示については、①正会員でかつ個人で購入した方、および②学生会員での購入者（大学等での先生の紹介によるグループ購入者も含む）の中で希望される方へサービスを提供します。
- (2) 上記の条件を満たす方で閲覧を希望される方は、「改訂6版用語事典 Web 上閲覧希望」とメール件名に明記の上、

氏名、会員番号および購入年月を付記して（学生会員でグループ購入された方は、紹介の先生の氏名も含む）、下記 E-mail宛にお申し込みください。

suido@jsidre.or.jp

- (3) 上記メールを受信および確認後、閲覧の手順およびパスワードを返信メールにてご連絡申し上げます。
- (4) 学会ホームページ上で閲覧が可能なものは、改訂6版 農業農村工学標準用語事典 PDF版およびWeb版が付記されたコンテンツになります。なお、Web版とは、改訂5版から改訂6版の編集において、時代や科学技術の変化にともない改訂6版から削除した用語の中から現在においても参考になる用語を収録したものです。

2027年の学会誌表紙写真の募集

学会誌企画・編集委員会では、2027年発行の学会誌も引き続いて学会員の皆さまからの写真などを基本に表紙を飾ることとします。以下の趣旨を参考に魅力ある写真などをふるってご応募ください。

趣 旨

現代に入り農業の近代化のために、農業農村工学の粋を集めた多くの農業（水利）施設が造成され、農業や農村の基盤を支えています。そして、近年、それらも更新や機能保全を重ね施設の様態も変化してきています。さらに、日本の農業農村工学の成果は技術移転により、海外の多くの国々で現地適用され、それらの国々の食料供給と農業生産の基盤を支えています。農

業農村の現場で活躍される技術者、現場での調査研究に邁進されている研究者の皆さま、国内外の農村地域における農業施設・構造物、特に新たに完成した施設や施工中の現場事例および国外においては日本の関連技術が適用された事例などの匠（造形美、用の美、融合の美）とそれを含む景観を広く学会員にご紹介ください。また、学生の方が実習やインターンシップなどで訪れた現場の写真も歓迎します。

記

1. テーマ

「農業（水利）施設・構造物とそれらに支えられた農地・地域の景観など：現代の最新技術と苦労が垣間見える造形美・用

の美など」

2. 対象巻号 学会誌第95巻(2027年第1~12号)

3. 写真などの種類

応募写真はA4以上B4以下のサイズにプリントしたものとします。プリントは「写真用紙—光沢紙」を使用してください。四つ切りワイドも含まれます。なお、四つ切りは254×305 mm, 同ワイドは254×356 mm, A4は210×297 mm, B4は257×364 mmです。カラー、モノクロは問いません。採用となった写真についてはデジタル写真の場合に限って画像データを送っていただきます。データを送信する場合は一点につき20 MB以下とし、これを超えるものはCDまたはDVDにて送ってください。形式はJPEGのみに限定します。

4. 枚数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限りです。

5. 締切 2026年9月30日

※応募時、過去1年以内に撮影したものに限りです。

6. 審査 審査委員会(編集委員と写真家)で選考します。

7. 結果発表

学会誌第95巻第1号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は2027年度大会講演会会場内でパネル展示します。

8. 被写体の説明文または「Cover History(表紙写真由来)」の執筆および賞金について

採用作品の応募者は、撮影の動機、被写体にひかれた点、被写体の説明などを、学会誌掲載の「Cover History(表紙写真由来)」にご執筆いただきます。ご執筆の詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。また、採用作品には規定の賞

金(1点につき1万円)をお支払いします。なお、すべての応募作品が不採用となった応募者には記念品をお送りします。

9. 使用権・出版権

採用作品の使用権および出版権は(公社)農業農村工学会に属します。

10. 注意点

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、農業施設・構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれること(花などの情緒物に埋没しないこと)が採用の条件となります。

また、被写体の学会誌への掲載、肖像権や権利関係については許可等、十分ご注意ください。

11. 応募方法および応募先

学会ホームページ(<https://www.jsidre.or.jp/format/>)より、投稿票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、勤務先、電話番号、E-mailアドレス、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、対象物の固有名称(固有名詞)、対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送りください。

なお、原則として、応募写真は返却いたしません。

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

(公社)農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会「表紙写真公募」係

TEL: 03-3436-3418

E-mail: henshu@jsidre.or.jp

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2026年7月から2029年6月までの編集体制と編集事務局

国際水田・水環境工学会(International Society of Paddy and Water Environment Engineering: PAWEES)では、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」(略称: PAWE)を発行しています。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されていますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。また、2025年のインパクトファクター(IF)は2.1であり、国際ジャーナル誌としての位置づけが確立しています。

水田農業における土地、水、施設および環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としており、掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑(水配分管理、水収支、灌漑施設、栽培管理)
- ② 排水(排水管理、排水施設)
- ③ 土壌保全(土壌改良、土壌物理)
- ④ 水資源保全(水源開発、水文)
- ⑤ 水田の多面的機能(洪水調節、地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全(水生、陸生動植物の生態系)

- ⑦ 水利施設と減災・防災(施設管理、地すべり、気候変動、災害防止など)
- ⑧ 地域計画(農村計画、土地利用計画など)
- ⑨ バイオ環境システム(水田農業と水環境、土壌環境、気象環境)
- ⑩ 水田の多目的利用(田畑輪換、田畑転換、施設園芸)
- ⑪ 農業政策(農村振興、条件不利地の支援策など)

また、世界12カ国からEditor(22名)を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名なSpringer社からの刊行です。掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の4種類です。

2026年7月から、新たな編集体制をスタートさせました。詳細は以下のとおりです(一部検討中)。

編集体制

・Editor-in-Chief

Dr. Yu-Pin LIN

College of Bio-Resources and Agriculture, National

Taiwan University, Taiwan

・ Associate Editors-in-Chief

検討中

・ Editors 12 カ国から 22 名

・ Editorial Advisors 27 名

・ Chief Managing Editor

検討中

編集事務局 (2029 年 6 月まで韓国担当)

検討中

投稿先: オンライン投稿 (<https://link.springer.com/journal/10333>) になります。

投稿資格: 筆者が農業農村工学会員で PAWE 誌の購読者であること。

投稿要領等: <https://link.springer.com/journal/10333/submission-guidelines> に詳細を記載しています。

発行スケジュール: 年 4 回 (オンラインジャーナル)

購読料: 正会員・名誉会員 9,900 円 (税込)

学生会員 (院生含む) 4,950 円 (税込)

非会員の方は購読できません。購読を希望される方は、まず農業農村工学会にご入会の上、お申し込みください。

なお、オンラインジャーナルへの完全移行に伴い、2016 年度からの購読はパスワードによる Web 上での閲覧になっています。冊子体の配布はありません。

申込先: 農業農村工学会事務局 (suido@jsidre.or.jp) まで会員番号を明記の上、お申し込みください。

第 75 回北海道支部研究発表会の開催

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 期 日 令和 8 年 11 月 6 日 (金)

2. 会 場

札幌市・北海道大学学術交流会館 講堂

(札幌市北区北 8 条西 5 丁目・北大正門すぐ)

※会場における対面形式と Webex を利用したオンラインの併用 (ハイブリッド方式)

3. 研究発表申込み

発表を希望する方は投稿原稿に先立ち、発表表題・発表者名を E-mail, FAX または郵送にてお申し込みください。

発表申込みの締切は令和 8 年 9 月 25 日 (金) です。

発表申込者には折り返し講演集原稿作成要領をお送りします。

講演集原稿の締切は令和 8 年 10 月 9 日 (金) です。

4. 参加申込み

北海道支部ホームページの参加申込専用サイトにてお申し込みください。なお団体申込み (一括して複数名の参加申込み) の場合は支部ホームページから所定の申込用紙をダウンロードし、ご記入の上、送付してください。

参加申込み締切は令和 8 年 10 月 23 日 (金) です。

参加申込みおよびプログラム等について、以下の北海道支部ホームページに掲載しますので、どうぞご参照ください。

<http://www.agr.hokudai.ac.jp/nougyoudoboku/hokkaido-shibu/TOP.html>

5. 発表申込みおよび問合せ

〒060-8589 北海道大学大学院農学研究院内

農業農村工学会北海道支部事務局

担当: 柏木淳一

E-mail: kashi_soil@agr.hokudai.ac.jp

TEL: 011-706-3641 FAX: 011-706-2494

6. 参加費用

学会会員: 無料, 非会員: 2,000 円

PDF 版の研究発表会講演集代を含みます。

冊子体の講演集を希望される場合は、参加費とは別に、5,000 円を頂きます。

北海道支部第 45 回研修会の開催

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 期 日 令和 8 年 11 月 5 日 (木) 13:00~

2. 会 場

札幌市・北海道大学学術交流会館 講堂

(札幌市北区北 8 条西 5 丁目・北大正門すぐ)

※会場における対面形式と Webex を利用したオンラインの併用 (ハイブリッド方式)

3. テーマ

「30 年後の北海道農業・農村の姿」(仮題)

北海道はわが国の耕地面積のおよそ 4 分の 1 を有し、稲作、畑作、酪農を中心とした土地利用型農業が展開されるとともに、カロリーベースの食料自給率は 213% に達するなど、わが国の

食料供給基地として重要な役割を担っています。一方で、農業者の減少や高齢化の進行、気候変動の影響、エネルギー・農業資材を取り巻く情勢の変化など、北海道農業・農村を取り巻く環境は大きく変化しています。

このような状況の中においても、北海道が将来にわたりわが国の食料安全保障に貢献し、持続的に発展していくためには、農業生産基盤の整備・保全や技術革新、人材確保・育成などを着実に進めていく必要があります。

そこで、本テーマでは、30 年後を見据えた北海道農業・農村のあるべき姿について幅広い関係者とともに検討し、その実現に向けて農業農村整備が果たすべき役割や方向性を明らかに

するとともに、関係機関・団体が将来像を共有することをテーマとします。

4. 参加申込み

北海道支部ホームページの参加申込専用サイトにてお申し込みください。

5. 参加費用 2,000 円

6. 問合せ先

〒060-8589 北海道大学大学院農学研究院内
農業農村工学会北海道支部事務局

担当：柏木淳一

E-mail : kashi_soil@agr.hokudai.ac.jp

TEL : 011-706-3641 FAX : 011-706-2494

講演者および開催時間等のプログラムに関しては現在調整中です。農業農村工学会北海道支部ホームページに掲載しますので、どうぞご参照ください。

<http://www.agr.hokudai.ac.jp/nougyoudoboku/hokkaido-shibu/TOP.html>

第 65 回土壌物理研究部会研究集会の開催

1. 主 催 農業農村工学会土壌物理研究部会

共 催 土壌物理学会

2. 日 時

2026 年 11 月 27 日（金）13：00～17：00

3. 会 場

東京大学弥生キャンパス フードサイエンス棟 中島ホール

4. 参加費 無料

5. 問合せ先

農業農村工学会土壌物理研究部会事務局

〒514-8507 三重県津市栗真町屋町 1577

三重大学大学院生物資源学研究科 渡辺晋生・坂井 勝

TEL : 059-231-9251

E-mail : sakai-m@bio.mie-u.ac.jp

6. その他

メインテーマ、参加申込方法は追ってお知らせします。

農業用ダム研究会シンポジウムの開催

農業農村工学会では、毎年農業用ダム研究会を開催し、ダムおよびため池に関する技術的課題の解決に向けた研究を委員の先生に取り組んでいただいています。2025 年度に農業用ダム研究会の第 9 期研究期間（2021～2025 年の 5 年間）を終了したことから、この間の農業用ダム研究会の研究成果を広くダム技術者へ周知するとともに、参加者が抱える各ダムの技術課題の解決に向けた糸口を見出すことを目的に開催します。近年は度重なる豪雨やため池の決壊等による流域治水への対応、内陸型地震や 2011 年に東北地方を襲ったプレート型巨大地震による大災害を契機として、巨大地震への対応といった国土の強靱化を必要とする意識が、国全体に高まってきました。また、第 9 期は「農業用ダム保全管理工学」という図書も刊行できまし

た。このため、第 9 期の成果の取りまとめが重要な位置づけになると考えており、今回のシンポジウムが新たな学問体系の構築にとって大きな契機になることを期待しています。詳細は、https://www.jsidre.or.jp/nogyoyo-dam_sympo/ をご覧ください。

1. 日 時 2026 年 10 月 8 日（木）13：30～17：00

2. 場 所 東京大学弥生講堂一条ホール

東京都文京区弥生 1-1-1 東京大学農学部内

3. 参加費 無料

4. 参加登録先

https://questant.jp/q/dam_2026symposium

（当日参加も可）

事例から学ぶセメント系材料の基礎知識セミナーの開催

1. 主 催 （一社）セメント協会

後 援 農業農村工学会ほか

2. 日時・場所

各会場の日時・開催場所はセメント協会ホームページのセミナー・動画配信申込ページ（<https://jcafukyu.jp/>）をご覧ください。

3. 問合せ先

（一社）セメント協会 普及部門

TEL : 03-5540-6180

4. その他

詳しくは、セメント協会ホームページのセミナー・動画配信申込ページをご覧ください。